

# 「大学連携型CCRCの事業実施に向けて」

～アクティブシニアを対象にした遠隔講義の実践～

平成27年地域政策研究センター(地域提案型・後期) 採択課題

課題名：八幡平市におけるCCRCの遠隔講義による生涯学習に関する実践と検討

研究代表者：宮城好郎（社会福祉学部）

課題提案者：山下直基・最上雄吾（株 アーベン・ケア・クリエイティブ）

研究メンバー：瀧澤寛之（株 クリアフィックス）、関貴之（八幡平市）、白石雅紀（東京未来大学）  
館山壮一（岩手県立大学大学院博士課程）、川村美沙樹（岩手県立大学学部生）

技術キーワード：CCRC、遠隔講義、生涯学習

## ▼ 研究の概要（背景・目標）

岩手県八幡平市の「オークフィールド八幡平」では、全国に先駆けてCCRCの形成を目指した「サービス付高齢者向け住宅」を核とした事業を推進している。**CCRCとは、(Continuing Care Retirement Community)の略称で、ケアサービス付きの高齢者の共同体(コミュニティ)**を意味する。当該事業では入居者に対して大学等と連携した生涯学習サービスを提供することが検討されている。

本研究では、オークフィールド八幡平を運営している(株)アーベン・ケア・クリエイティブの提案を受け、大学連携型CCRC構想の一環として遠隔講義の実践と検討を目的として実施した。



図1 オークフィールド八幡平外観



図2 県立大学見学（オークフィールド八幡平入居者）

## ▼ 研究の内容（方法・経過）

1) 遠隔講義：オークフィールド八幡平に居住している高齢者を対象に遠隔講義の実験を行った。遠隔講義では、現在無料で使用できるビデオチャットのなかでも最も普及率の高い「Skype」（動画付き音声通話システム）を利用した。配信する講義内容は、岩手県立大学の下記の授業2回分である。

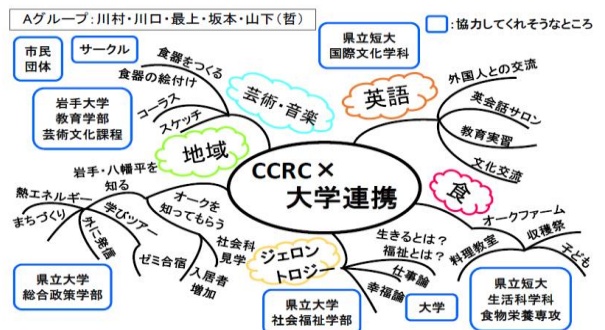
- ・授業科目名：「社会貢献論」
- ・受講者：学生35名、入居者6名
- ・実施日：① 平成28年5月9日、② 5月16日

### 2) ワークショップ

平成28年7月に生涯学習に関する岩手県立大学との連携について検討することを目的に、「マインドマップ」の手法を使いワークショップを実施した。



図3 Skypeを利用した遠隔授業のイメージ



第1回CCRC×大学連携ワークショップ 7月1日 場所：岩手県立大学社会福祉学部棟208演

図4 マインドマップの成果物（整理：川村美沙樹）

## ▼ 研究の成果（主な結果）

- ・遠隔講義については、入居者の積極的な参加（質問・意見）姿勢が見られた。大学に行かなくても講義に参加できるという利便性や遠隔講義ならではの「楽しさ」だけでなく、学習者の主体的・対話的等、学びの場となる可能性があり、「アクティブ・ラーニング」の視点からも期待できる。
- ・遠隔講義を円滑に進めるために、「ファシリテーター」の存在が不可欠であることが分かった。
- ・集音性の高い会議用マイク・スピーカー、広角レンズカメラ、サブカメラ等の機器や、音声や映像を遅滞なく高品質で配信するには安定した**高速通信環境**が必須であることが分かった。
- ・CCRC入居者に対する**ICTリテラシー教育**も遠隔講義と平行して行うべきであると考えられる。
- ・ワークショップでは、生涯教育の内容に関するキーワードとして「**ジェントロジー**」「**地域**」「**音楽・芸術**」などが示された。今後、大学連携の生涯学習を推進するにあたり、**推進主体の組織化**が課題である。

## ▼ 今後の展開

今回のアクティブシニアに対する遠隔講義は、これまで行われてきた「高齢者向けの生涯学習」とは異なる、新たな取組みであると実感できた。アクティブシニアの積極的な受講姿勢による学習効率の向上については受講期間を最低半年以上に設定しながら、今後検証していきたい。さらに、**アクティブシニアの経験や知識、技術を逆に大学生に講義**をすることで、次世代の育成や高齢者自身の生きがいに貢献できる仕組みを考えていくつもりである。